那須の歴史再発見！

那須町の地域文化遺産

vol.1

千振地区の「開拓」碑
※写真は千振開拓農協提供

新連載「那須町の地域文化遺産」では、町内各地にあふれる魅力ある地域文化遺産を1年ごとにテーマを定め紹介します。初年度は、「戦後開拓碑」をテーマとして、初回は千振地区にある「開拓」碑を紹介します。

千振開拓など、多くの戦後開拓の前身と言えるのが、かつて中国東北部に存在した満州国で実施された「満蒙開拓」です。「満蒙開拓」も試験移民（武装移民）、分村・分郷移民、満蒙開拓青少年義勇軍、帰農（転業）開拓団などそれぞれの経歴・出身により違いがあります。

千振開拓は、昭和7年～同10年まで実施された試験移民の第2次移民として、東北・関東・中部など14県から在郷軍人500名が選抜され、宗光彦団長のもと三江省樺川県七虎力（しちこりき）（現黒竜江省・満州語でチフリと発音）に入植しました。「千振」は地名の発音から命名されたものです。満州国の千振では、農業に従事すると共に武装移民として治安維持にもあたりました。

昭和20年8月9日、ソ連軍の満州国侵攻が始まると、千振開拓民の逃避行が始まり、帰国できずに亡くなった方々もいます。帰国できた千振開拓民は、国内での入植先を求め、昭和21年11月7日に120戸が高津地区（那須村）・西郷地区（福島県西郷村）・高原地区（塩谷郡）に分かれ入植し、戦後の開拓がスタートしました。その後高原地区に入植した開拓民は、大島地区に再入植しています。

千振開拓民の入植当初は、麦作など畑作中心で営農していましたが、相次ぐ霜害・冷害により営農形態が酪農へとシフトし、現在は酪農が盛んな地域として知られています。また、教育・文化の面でも、千振季節託児所（現町立千振保育園）や逃室小学校千振分校（廃校）が設立され、大人たちも俳句会・短歌会を結成するなどしています。

千振地区にある「開拓」碑は、そのような戦中・戦後の千振開拓民の歴史を体現しています。昭和41年に建立されたこの碑はかつて千振開拓団長を務めた吉崎千秋氏による撰文です。また碑は日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」の構成文化財でもあります。千振地区を訪れる際にはぜひお立ち寄りください。

▼問合せ　那須歴史探訪館
☎74-7007

満州時代の
千振開拓団員

かっこう

5月の第2日曜日は母の日です。母の日はアメリカ人の女性が亡くなった母を追悼するため、母が好きだった白いカーネーションを参列者に配ったことが由来と言われています。▼母の日が近づくにつれ、子どもの頃に一緒に散歩したことや風邪をひいたときに食べさせてくれたおかゆ、辛いときに支えてくれたことなど、母の強さや優しさに支えられてきたことを思い起こします。▼毎年母の日のプレゼントは、母が欲しいと言っていた物や好みの物を姉妹で相談して渡しています。私が学生の頃は金銭的に余裕がなく、プレゼントを購入することができなかったため、せめてもの感謝の気持ちをと手紙を送ったこともありました。▼社会人となってプレゼントを購入できるようになると、気恥ずかしさが勝り手紙は送っていませんでしたが、母が一番喜んだのは手紙でした。プレゼントそのものも嬉しいが、プレゼントに込められた気持ちが何よりも嬉しいのだと。▼母に限らず身近な存在への感謝の気持ちは、日々の忙しさの中で忘れがちになってしまいます。今の自分があるのは、これまで関わってきた方たちのおかげであること、周囲への感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいものです。

こんにちは赤ちゃん

令和6年8月生まれ

深澤　蘭七（らな）ちゃん

らなちゃんは…

お兄ちゃんが大好きな我が家の癒しちゃんです♪

令和6年6月生まれ

櫛田　琉翔（るいと）くん

るいとくんは…

床バンバン叩くのが大好きな元気な男の子！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは企画政策課広報広聴係（☎72-6935）まで。

町の世帯と人口

（4月1日現在・住民基本台帳）（）の数字は前月比

- 世帯数　10,801世帯（+　16）
- 人口　23,460人（−　84）
  - 男 11,690人（−　45）
  - 女 11,770人（−　39）

出生	7人（+　2）
死亡	46人（−　2）
転入	138人（+ 75）
転出	178人（+113）
その他	−5人増減

5月7日発行（月1回）／発行：那須町役場（〒329-3292 栃木県那須郡那須町大字寺子丙3-13）編集：企画政策課（☎72-6935　FAX72-1133）
那須町公式ホームページアドレス https://www.town.nasu.lg.jp　※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。